

南極測地観測チーム日本測地学会坪井賞 団体賞受賞

2007年5月23日(水)、地球惑星科学連合大会(@幕張メッセ)の会期中に開かれた日本測地学会総会において、学会賞である坪井賞団体賞の表彰式が執り行われました。第7回目となる今年の団体賞は、南極の地殻変動を解明した南極観測・測地地球物理研究グループ(代表:神沼克伊国立極地研究所名誉教授)に贈られました。受賞の対象となった南極での地殻変動観測には、当時のCRLが協力して実現した南極VLBI観測の成果も含まれており、1960年代以降長年にわたって昭和基地を中心に地震、重力、潮汐、GPSなどの観測を実施してきた国土地理院、海上保安庁、大学などと共に表彰されたものです。

南極VLBIは1990年1月に初の実験が当時のCRLと国立極地研究所との協力で実施されました。その後、1997年12月の第39次日本南極観測隊(JARE39)によって定常観測が開始され、現在に至るまで地球上で最南端に位置するVLBI観測点として基準座標系の構築に大きく寄与しています。例えば、CRLから技術移転されたK4システム、そしてNICTで開発したK5システムが南極VLBI観測の要として活躍しています。こうした観測は一見すると地味ですが、VLBIによる継続的な局位置のモニターが南極氷床の消長を把握することに繋がり、ひいては近年危惧される地球温暖化のメカニズム解明にも繋がると期待されます。(RI記)



坪井賞授賞式で大久保修平測地学会会長(東京大学地震研究所)から記念の盾を授与される神沼先生



ユーモアを交えて記念講演をされる神沼先生(左)と画面に映し出された南極VLBI観測局(右)